令和元年度　くまもと・わくわく基金
冠基金　東京エレクトロン九州・マッチングギフト
冠基金　公益社団法人　熊本法人会ファンド

事業報告

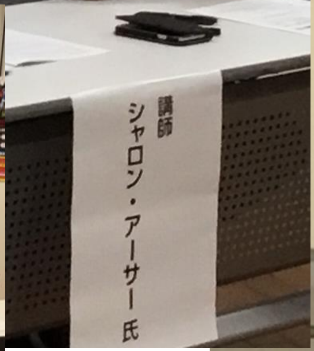
団体名：NPO法人くまもと新創生プロジェクト

助成事業名：スタートアップ助成「おもてなし講座」の開催

（１）実施内容

- 熊本市において、今からも多くの外国人が観光でやって来る、また在熊していくことが予想される。
- そんな中で、一律に外国人と日本人という短絡的な分け方ではなく、それぞれのお国柄や人柄を知ることは重要である。
- また、それらを通して日本人や熊本の特徴を知ることができる。
- 熊本在住の外国人を呼び、人柄や風習文化を学び、日本との違いや熊本とのつながりなどを聞いた。
- 第1回フランス、2回イギリス、3回オセアニア、4回東ヨーロッパ、5回熊本茶、6回台湾、7回中国、8回熊本飲料であった。相手を知り自分たちの文化も知ることでお互いの交流を深める機会となった。

（１）実施内容



（２）助成金の活用

- 入場料は0円としたため、寄付金と助成金でまかなった。
- 全8回行ったので一回あたり16000円程度で行った。
- 助成金は8万円だったので、その多くが講師料を中心に利用した。
- そのおかげで、様々な外国の人を呼ぶことができた。
- 1回平均2人を呼ぶことができ、その国のことを多面的に話しを聞けた。

（３）成果、市民の声（参加者やサポートを受けた方）

- 私たちは外国のそれぞれの人となりやお国柄の事をいかに知らないかがよく理解できた。

- 例として、フランス人からは「下通を歩いているとハローと声をかけられる。白人だから英語を話せばいいと錯覚している。私はフランス人だ、英語で話されることに違和感を覚える。あなたにニーハオと言われたら、どう感じる？」
- 中国人は「中国と言っても大変広い。ある意味まったく別人種のようなもの。食文化も性格も違う。」
- さまざまな声が聴けた。

（4）今後の事業展開

- コロナ禍で、外国人観光客は今はいないが、数年後には、また戻ってくるし、より多くの外国人がやってくる。
- 就業に関しても、長期的に外国人労働者のチカラを頼ざるを得ない。
- 熊本市も、熊本人（日本人）同士だからという暗黙の意思疎通でやっていけると思っていてはいけない。
- さまざまな面で、どうやって意思疎通を図るか、今から我々自身が意識していかないと、いけない。
- 今後、東南アジア（ベトナム、ラオス、フィリッピン）やインド、イランなどをやっていきたい。
- 熊本市が真の国際化するために、市民レベルで外国人とどう付き合っていくか、もっとやるべきことは多い。